## **CONTENTS**

社会福祉法人楽友会の施設事業所		2
常務のつぶやき		3
第2期経営計画に5年後の夢を乗せる	T	4
第2期経営計画のあらまし		8
楽しく介護予防体操 Let' Try! 肩こり体操で心も体も軽やかに!	1	0
ch/1+0.4-	1	_



1 2

表紙イラスト 白楽荘介護職員 高橋俊一郎

## 常務のつぶやき 日々雑感

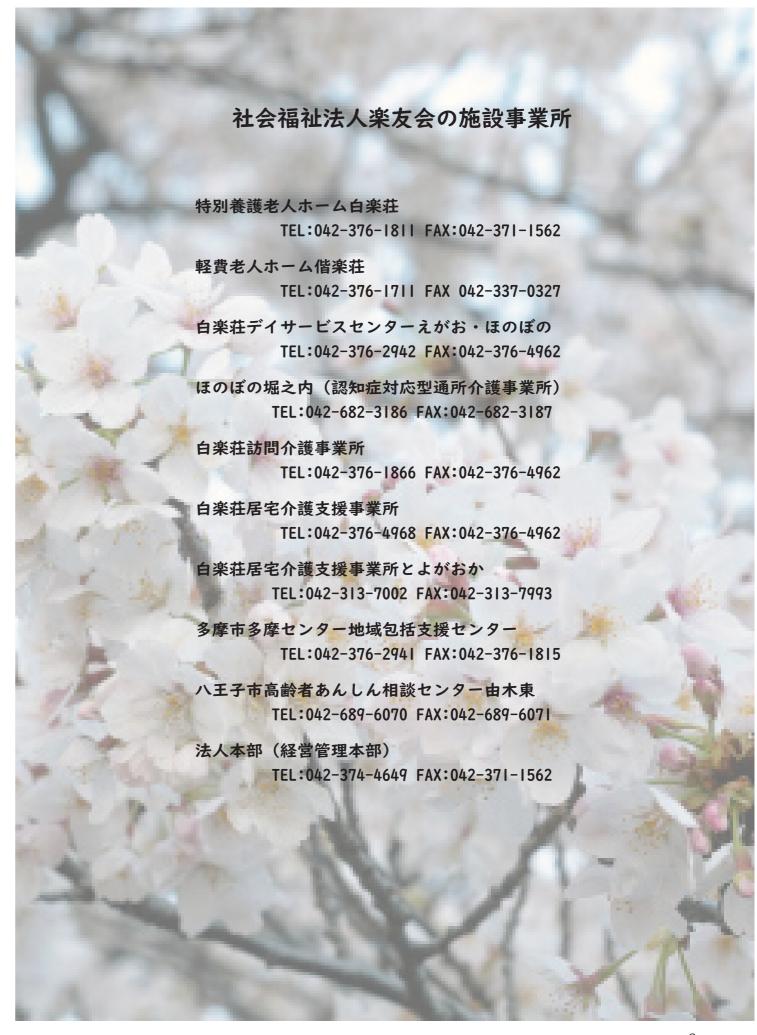
振り返ると、ここ1年強の間は新型コロナウイルスに翻弄されていました。今でもその状況に大きな変化はありません。それでも国内でワクチン接種が始まり、高齢者施設でも順次優先接種が開始されることで、ある程度の区切りを迎えられるような気がしています。それとともに、この感染症の脅威へのある種の「慣れ」に危惧することもあります。

先日、発生から10年が経過する東日本 大震災についての新聞記事のなかに、宮城 県女川町で震災による行方不明者の水中捜 索を続けるボランティアダイバーの記事が ありました。それによると、海の底には津 波で流された家や船の一部、車などが当時 のまま沈んでいるとのこと。ボランティア ダイバーのなかには震災後に潜水士の資格 を取った行方不明者の家族もいるとのこと でした。あの日の出来事は決して過ぎ去っ た過去ではなく、今もなお続く現実の出来 事であり、終わってはいないのだと訴えて います。

「なぜわれわれはこの地、広島にやって来るのか。そう遠くない過去に放たれた恐ろしい力について思案するために来るのだ。」これは2016年5月に当時のアメリカ大統領バラク・オバマ氏が広島を訪れた際に演説で述べた一節です。演説では私たちは過去を忘れずよりよい未来について思案することが重要なのだと述べています。

これらのことは、震災や戦争のことだけではなく、今、現実の脅威としてある新型コロナウイルスについても同じなのではないでしょうか。変化してしまった日常に慣れ、大切な何かを忘れてしまってはいないか。もう一度、振り返ってみたいと思います。

常務理事 鶴岡哲也



奇仃報告

栄養士'sキッチン